

開拓使時代の姿が残る 木造建築物を見てみよう

明治初期、政府は北海道に開拓使という官庁を設置し、札幌のまちづくりに着手。当時の建物には、西洋の技術や文化を取り入れた木造建築物が多くあります。今回は現在も保全されている文化財の中から、3つの施設を紹介します。

市内に残る唯一の通行屋

旧黒岩家住宅(旧簾舞通行屋)

市指定の有形文化財



▲1984(昭和59)年に通行屋屋守である黒岩家から市に寄付され、現在は郷土資料館として建物内を見学できる

1871(明治4)年に札幌と虻田方面をつなぐ道路が完成したことに伴い、翌年に宿泊や休憩の場として通行屋を建築。当時は旅行者や荷物を運ぶ人馬など、多くの利用があった。通行量の減少により、1884(明治17)年に通行屋が廃止された後、現在地(南区簾舞1の2)へと移築された。

開拓使の洋風建築を代表する建物

豊平館

国指定の重要文化財

1880(明治13)年に開拓使直営の洋風ホテルとして建築された、現存する木造ホテルとしては日本最古の建物。明治天皇が最初の宿泊者で、その後も大正、昭和と3代にわたって天皇家が訪れた。当初は中央区北1西1にあったが、保存を目的として、1958(昭和33)年に現在の中島公園内に移築された。



▲完成当時の外観



▲化粧の間

和と洋を巧みに取り入れた接待所

清華亭

市指定の有形文化財

1880(明治13)年に来賓をもてなす場所として開拓使が建築。外観は洋風でありながら、内部は洋風棟と和風棟に分かれた和洋折衷様式となっている。1886(明治19)年の道庁設置とともに民間に払い下げられたが、その後1933(昭和8)年に市へ寄付され、今もなお建築時と同じ場所(北区北7西7)にその姿をとどめている。



[出典]札幌市写真帖

▲市内最初の公園である偕楽園の中に建築された。現在は自由に見学でき、建物内には記録資料も展示されている

札幌の歴史
あれこれ
No.07

【開拓使時代の建築物】

今や196万人以上が暮らす街へと発展した札幌。ここでは、これまでの札幌の歩みを、さまざまな角度から見ていきます。

問い合わせ

広報課(21)2036

新型コロナウイルス感染症の影響により、施設が休館となる場合がありますのでご注意ください。